

## 土砂災害危険箇所の周知について

このところ異常気象により大気が不安定になることが多く、過去にない大雨・洪水・土砂災害、局地的集中豪雨(ゲリラ豪雨)が発生し、これまでに発生したことのない場所でも内水氾濫、洪水、がけ崩れ、土石流の危険性が高まっています。

とくに最近各地で記録的豪雨が頻発し、極めて短時間に住宅浸水や土砂災害が発生し深刻な被害をもたらしています。

村内にも大雨による土砂災害危険箇所がありますので、これを住民の皆さまにお知らせするとともに、ご自分の住む地域がどのような状況なのかあらためて、ご確認くださいようお願いいたします。

### 土砂災害危険箇所とは？

土砂災害が発生するおそれのある箇所をいいます。

**【注意】土砂災害危険箇所は土砂災害の発生箇所を決定するものではありません。**

土砂災害危険箇所の範囲外でも、災害が発生する場合があります。

### 土砂災害とは？

台風や大雨等が引き金となって、土石流やがけ崩れ、地すべりなどの自然現象により、住民の生命、身体、財産等に被害が生じることをいいます。土石流の現象については次のとおりです。



**【特徴】** 山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。時速 20～40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

#### 【主な前兆現象】

- 山鳴りがする
- 腐った土の匂いがする
- 立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 降雨が続くのに川の水位が下がる

など

## 土砂災害から身を守るために

土砂災害から身を守るためには、私たち一人ひとりが土砂災害に対して日頃から備えておくことが重要です。ここでは、土砂災害から身を守るために最低限知っておくべきポイントを紹介します。

### (1)住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認する。

村内には、現在4地区(登、北登、向丘、知来別地区)に6箇所の土砂災害危険箇所があります。村内の土砂災害危険箇所の位置を確認しておきましょう。

別添の「土砂災害危険箇所図」をご覧ください。より詳細な図をご覧になりたい場合は、北海道建設部土木局河川砂防課又は北海道後志総合振興局小樽建設管理部のホームページで確認することもできます。

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kss/index.htm> 又は  
<http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/kk/okk/>

### (2)雨が降り出したら「土砂災害警戒情報」に注意する。

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、「大雨警報(土砂災害)」が発表されている状態で、土砂災害発生危険度がさらに高まったときに、村が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、北海道と気象庁が共同で発表する防災情報です。

気象庁ホームページや北海道後志総合振興局小樽建設管理部などのホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されます。

お年寄りや障害のある方など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難させることが大事です。また、強い雨や長雨のときなどは、村の防災行政無線や広報車による呼びかけにも注意してください。

### (3)「土砂災害警戒情報」が発表されたら早めに避難する。

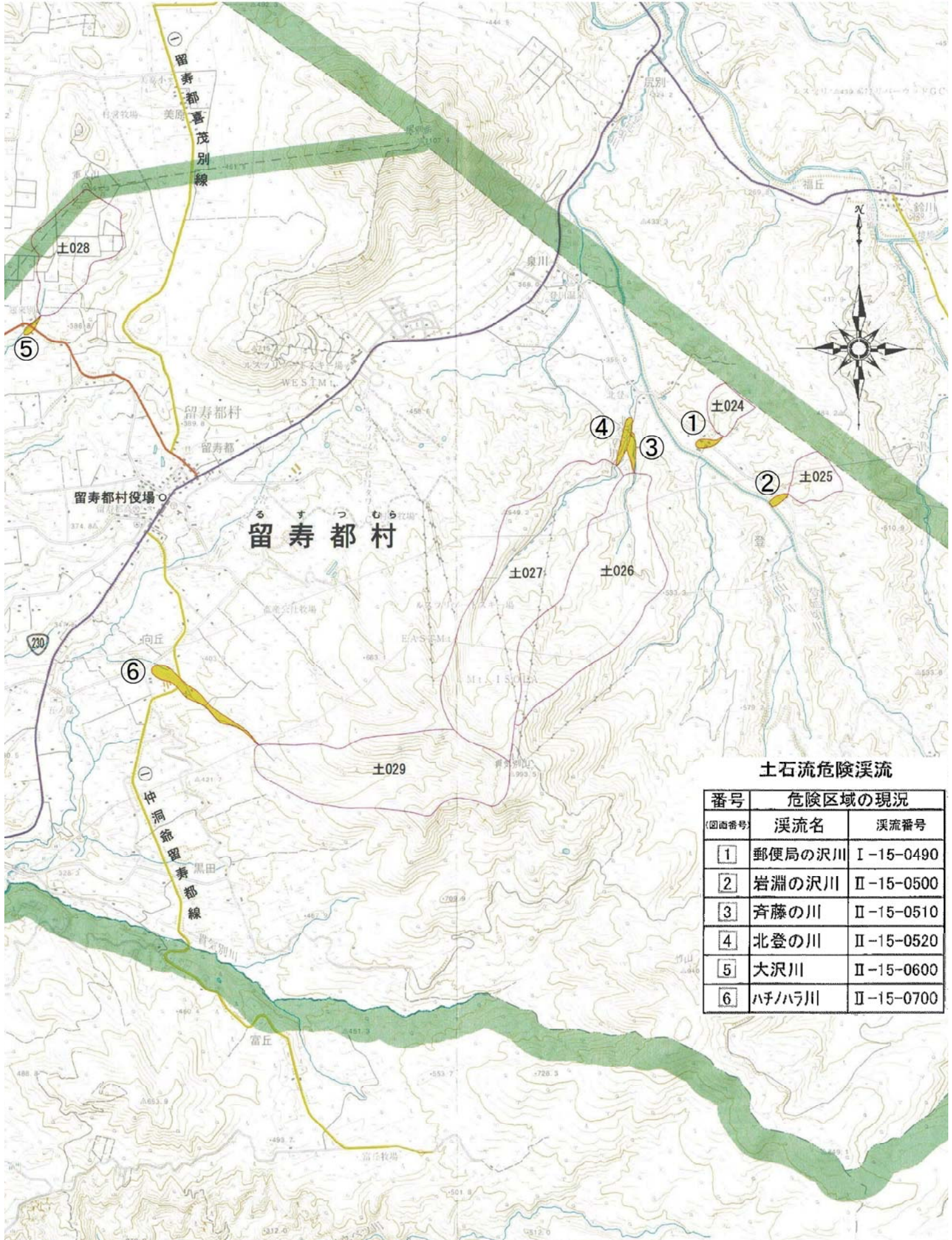
住んでいる地域に土砂災害警戒情報が発表されたら、早めに近くの避難所や避難所が開設されていないときは、自主的に安全な場所に避難(移動)しましょう。

土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。雨が強く降っている状態で建物の外に出るのが危険であるときなど、避難場所への避難が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

担当 企画課 TEL 46-3131

# 留寿都村 土砂災害危険箇所図

土砂災害危険箇所 ①～⑥



土石流危険溪流

番号	危険区域の現況	
(図面番号)	溪流名	溪流番号
①	郵便局の沢川	I-15-0490
②	岩淵の沢川	II-15-0500
③	斉藤の川	II-15-0510
④	北登の川	II-15-0520
⑤	大沢川	II-15-0600
⑥	ハチハラ川	II-15-0700